

令和 3 年度 県立太田西山高等学校自己評価表

目指す 学校像	1 人間力を高め、将来の夢を実現する学校 2 知・徳・体の調和のとれた、心身ともに健全な人格の完成を目指す学校 3 自ら学び続ける力の育成を目指す学校 4 地域に愛され、信頼される学校		
昨年度の成果と課題	重 点 項 目	重 点 目 標	達成状況
学習指導については、55%の生徒が家庭学習を行い、授業に前向きに取り組む。他方、46%の生徒は不十分であると感じている。授業内容を理解しながら、家庭学習でのフィードバックが不十分で定着に至っていないと思われる。ＩＣＴ機器やアプリの利用による主体的な家庭学習の実現が必要である。 進路指導については、70%の保護者が、本校の進路指導が充実していると感じている。83%の生徒は、将来の進路に関しての面談や指導が十分に行われていると感じている。来春 1 期生が卒業のため、3 年間の一貫した進路指導の体系を完成させる年となる。 生徒指導については、地域住民は本校生のマナーや挨拶について25%近くの人があまりよくできてはいないと感じている。生徒指導は少ない状況ではあるが、個別の指導・支援が必要な生徒が見られる。個別面談の充実により、生徒の心に寄り添う指導体制が必要。学年や生徒指導部による組織的対応と指導で時間外指導の負担軽減を推進。 特別活動は69%の生徒が、学校行事、生徒会活動が充実していると感じている。サッカー部や自然科学部が県大会等に出場し活躍している。生徒を学校生活に主体的に取り組ま	1 探究活動等による生徒の資質・能力の向上	- 生徒の実態に即した授業の展開を通して、基礎学力の向上と学習意欲の喚起に努める。 ①アクティブ・ラーニングによる主体的な学びに向かう力を育成するための授業改善 ②基礎的な知識および技能の定着と、それらを活用して思考・判断・表現する力の育成 ③ＩＣＴ教育推進プロジェクトチームを発足し、反転学習や授業中のＩＣＴ活用の推進を図る ④ＩＣＴ機器の活用による学習動画の視聴や、アプリケーションによる授業のふり返りによる、家庭学習の定着と学習時間の確保	B
	2 キャリア教育の推進による、生徒一人一人に適した進路の実現	・ライフスキルの育成を通して、個に応じたきめ細かな進路指導を充実するとともに、生涯にわたって充実した生活が送れるよう、生徒一人一人に適した進路の実現に努める。 ①ライフスキルの育成を中心とするキャリア教育の充実 ②進路実現プロジェクトチームを発足し、生徒のキャリア教育と進路の実現に努める ③自己理解を深めるとともに、キャリアノートやアプリケーション等による自己分析と自己管理に努める	A
	3 シティズンシップ教育の推進による主体的に社会に参画する力の育成	・ライフスキルの育成を通して、自ら考えて行動する中で基本的生活習慣の確立を図るとともに、自主的・自律的な態度の育成に努める。また、特別活動の充実を通して、学校生活の活性化を図るとともに、集団の一員としての自覚と責任に基づく規範意識の高揚に努める。話し合いでの課題解決を促すことで社会に参画できる資質・能力を養う。 ①基本的生活習慣の確立 ②HR活動、生徒会活動、学校行事の活性化 ③部活動の加入率の向上と継続的な活動への支援 ④道徳教育による自己のあり方・生き方を考える力の育成 ⑤カウンセリングマインドを持って傾聴する等、教育相談体制の充実を図る ⑥シティズンシップ教育により自分たちの課題を話し合い、自己決定し、主体的に行動する流れをつくる	B
	4 地域、保護者との交流・連携による教育活動の充実	・地域の歴史を学び、地域における特色ある体験や地域の教育力を活かした活動を通して、教育活動を充実させるとともに、信頼され期待される学校づくりを目指し、本校の教育活動に対して地域、保護者の理解が得られるように努める。 ①保護者との緊密な連絡と連携 ②中学校訪問や説明会及びHP等による情報の収集と発信 ③地域社会の理解を目指した取組の推進 ④学校が担うべき業務を明確化し、外部への委託の推進	A
	5 働き方改革の推進	・勤務時間削減のため、仕事の優先順位付けを行うとともに、仕事の質の向上を目指す。 ①会議時間の上限設定 ②会議内容の事前周知を伴う、会議資料のペーパーレス化を継続する ③ＩＣＴ教育の推進（授業の振り返りや予習のための動画の配信、確認テストの配信など）に	

せ、体験活動を充実させるために、キャリアパスポート等を活用し、連携の取れた指導体制の確立が必要である。部活動については、長時間の指導とならないように効率的な実施に努める。		より教科間等の共有を進め、仕事の効率化を図る		B	
三つの方針		具体的目標		評価	次年度(学期)への主な課題
「三つの方針」 (スクールポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) 人間力を高め、地域を支え活躍する人材		B	B 卒業時に望まれる姿を、各教育活動に取り込んだ目標設定。 生徒の幅広い進路実現のための体制構築 入学希望者や中学校関係者に対して、学校が期待する生徒像を明示
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) 生徒の幅広い学習ニーズに対応した教育課程による、就職から大学進学までの進路希望実現		B	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) 主体的に学び続けることのできる生徒		B	
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導	充実した授業の展開	①授業時数の確保及び授業の終始時間を厳守する。		A	B ICTを活用した意見の集約や探究活動を取り入れた授業の展開
		②授業の相互参観を年間2回以上実施する。		B	
		③基礎学力の定着から応用力の育成を目指し、授業実践を工夫する。		B	
		④学習意欲の喚起・向上を目指した観点別評価の在り方を研究する。		B	
		⑤アクティブ・ラーニングの視点から、主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善を研究する。		B	
国語	わかりやすい授業のための工夫	①生徒の実態に即したワークシート・資料を活用する。		A	A 生徒用PCを活用した授業づくりを行う 語彙力をつけるための漢字指導・読書指導の充実を図る
		②生徒が答えることができる適切な発問をすることで、達成感を得られる授業を展開する。		A	
		③ICTを効果的に活用する。(授業の場面、場面で)		B	
	基礎学力の向上と学習意欲の喚起	①机間指導やノート点検を行い、学習状況を把握する。		A	
		②積極的にアクティブ・ラーニングを導入し、生徒自身が考える時間を設ける。		A	
		③小テスト等を利用して漢字や言葉の理解度、定着度を確認する。		A	
		④漢字検定の受検者数と合格者を増加させる。		B	
	読書に親しむ態度の育成	①教材に関連した本の紹介をすることで、生徒の読書意欲を喚起する。		B	
		②図書室と連携して図書室の利用を促す指導を行う。		A	
地歴公民	基礎学力の定着と向上	①教科書の内容をより精選し、簡潔でわかりやすい板書を実施する。		A	A ICTを使った授業作り(グループ発表や話し合いの実施) 生徒の学習段階に応じた個別的な対応
		②アクティブ・ラーニングの手法を採り入れ、基礎知識の定着と思考・判断・表現力の向上を図る。		B	
	興味・関心を引き出す授業の展開	①電子黒板等のICT機器や資料集を活用した導入や発問を研究し、興味・関心を引き出す。		A	
		②プリントなどの作業を組み込み、生徒の興味・関心を高めると同時に家庭学習の促進を図る。		A	
	国際化・情報化・地域学習の展開	①教科書・資料・新聞記事などで確認をしながら主権者としての知識を深めさせる。		B	
		②常陸太田市や茨城県等の地域に係わる情報を提示する。		B	
	適切な授業環境の構築	①電子黒板等のICT機器や資料集を活用することで生徒の興味・関心を深めさせ、主体的・対話的で深い学びを実現する。		A	
		②生徒の様子を観察し、挨拶や言葉かけに努めて、適切な授業環境を構築する。		A	
	分かる授業のための工夫	①授業プリントの作成と活用を工夫する。		A	基本的な計算練習等の学び直

数 学		②少人数制の授業では、個に応じた指導を徹底する。	A	B	しの充実 ICTの継続的かつ効果的な活用方法の検討
		③関数や図形を扱う単元では、電子黒板等を効果的に活用する。	B		
	基礎学力の向上	①基本的事項の定着を目指し、学び直しの指導を徹底する。	B		
		②生徒の実態に応じた問題作成を行い、定期考査の平均点を50～60点程度にする。	B		
		③検定試験対策をはじめとした、生徒の進路希望に応じた課外学習を計画的に実施し、数学的な力を伸ばす指導を徹底する。	B		
		④数学検定を年2回募集し、3級合格者2名以上を目指す。	A		
		⑤定期考査毎に課題（ワークブックやプリント等）を出し、家庭学習の習慣化を図る。	A		
理 科	「わかる授業」実現のための教材及び授業展開の工夫	①身近な事例の提示やICTの活用を図り、生徒の理科に対する興味関心を喚起する。また、板書の工夫を行い、わかりやすい授業の展開に努める。	B	B	ICT機器を積極的に取り入れながら、考えさせる機会を取り入れる。 対話に限らずに、言語活動を取り入れながら考えさせる機会を設ける。 実験や実習を授業に効果的に取り入れ、生徒に飽きさせない授業展開を考える。
		②「考えさせる」場面を取り入れた授業展開の工夫に努める。また、実験や観察を適切かつ効果的に実施するとともに、レポート作成やグループワークにおいて言語活動を取り入れた指導を行う。	C		
	基礎学力の向上	①問題演習を積極的に取り入れ、科学的な見方・考え方の育成を図る。	B		
		②ふりかえりとして授業内容を文章としてまとめる言語活動を通して、表現力の育成を図る。	B		
	家庭学習の定着及び学習時間の確保	①生徒の実態に応じて適宜課題を課し、家庭学習の定着を図る。	C		
保 健 体 育	保健体育の授業の充実	①運動の楽しさや喜びを十分に味わうことができる授業を展開する。	B	B	感染症対策を講じながら運動量を確保する工夫がより必要になってくる
		②オリンピックについて、授業内容を工夫し、知識理解を深めさせる。	B		
		③集団行動や学習マナーの徹底を図り、ルールの大切さを学ばせる。	B		
		④授業や講習会を通じてAEDの正しい使い方を習得させる。	B		
	生徒の体力向上への意識の高揚	①体力テストの結果を活用し、年間を通じて補強運動を行い体力を向上させる。	A		
	特色ある体育的学校の行事の実践	②運動量を確保するための体育教材や授業形態の工夫・改善をする。	B		
芸 術	芸術科目への積極的な参加	①各自、教材教具の事前準備、遅刻や欠席をなくす基本的な態度や姿勢を養う。	A	B	鑑賞授業や調べ学習、主体的な学習を行える環境が不十分なので整備していきたい
		②生徒が主体的に授業に参加し、自ら表現技法を工夫できる能力を養う。	B		
	鑑賞教育の充実	①歴史や理論を背景に、基本的な技法を体得し、各自の作品を発表・鑑賞し合う。	B		
		②芸術を通して、歴史的価値や芸術性の高いものを広く鑑賞し、作品を評価する能力を養う。	B		
英 語	基礎学力の向上	①定期的に小テストを実施し、学習の理解度を把握する。	B	B	直接的な会話を控えながらも、思考・判断・表現力を育成するような言語活動をしていく必要がある
		②考査前に補習を行い、理解の不十分な生徒の学習を支援する。	A		
		③ICTを活用し視覚的・聴覚的にわかりやすい教材による授業展開で、基礎学力の向上を図る。	B		
		④ネイティブスピーカーによる英語音声を活用し、自然な英語の発音を身に付けさせる。	B		
	家庭学習の習慣化	①スタディサプリも活用した定期的に課題や宿題を与え、家庭学習の習慣化を図る。	B		
	英語に対する関心の向上	①ALTとのティームティーチングやチャレンジプロジェクトの英語運用力講座を通して、英語に触れさせることで生徒の英語に関する意欲・関心を高める。	A		
		②実用英語検定の受検を推奨し、英検課外で資格取得者の増加を図る。	A		
家 庭	自立に必要な基本的知識と技術を習得させる。	①補助教材の活用により基礎的な内容の徹底を図る。生徒が主体的に取り組めるような適切な教材を提供する。施設、設備の安全管理を徹底する。	A	B	1年時の基礎科目から2～3年時の専門科目へと段階的なつながりを意識した指導を行う
	生活の充実向上を図る力と実践的な態度を育成する。	①学習したことを生かして、自らの生活課題の解決を図ることができるようにする。	B		
情	情報社会に参画する態度の育成	①社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させる。	B	B	プレゼンテーション能力の向上
		②コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用するための基礎的な技能を習得させる。	B		

報		③コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を通して、情報を生活に役立て主体的に活用しようとする意欲と態度を育成させる。	B		
商業	基礎学力の向上を目指し、分かる授業を展開	①商業を初めて学ぶ生徒に対して分かりやすい言葉・表現で授業を行い、苦手意識を持たせないようにする。自ら家庭学習に取り組めるように宿題や課題の出し方を工夫する。	A	A	新学習指導要領に沿った形で の新検定に対して旧課程での授業展開になるので、今まで以上にきめ細かな指導を行っていく。また、2年生は初めての商業の授業であるから、苦手意識を持たないよう細かく指導に当たる。積極的に外との関わりを持つようにする
		②科目担当者などを中心に、指導方法等について研究協議を行う。	B		
		③定期的に課題の提出やノートを点検し家庭学習の定着を図る。	A		
	規範意識の向上	①商業の各科目のすべての分野で授業をとおり規範意識の向上を図る取り組みを行う。	A		
	地域の特色を生かした授業	①インターンシップや販売実習などで地域の企業に協力を仰ぎ交流を図る。	B		
		②地元、常陸太田について研究し、商品開発に結びつく取り組みを行う。	B		
	主体的な進路選択の促進	①コンピュータを利用した学習を通じ、進路情報の収集やその利用を図る。	A		
		②課題解決型の学習を取り入れ、主体的に課題を見つけ解決する力を育成する。	A		
福祉	福祉について体系的・系統的に理解し、関連する技術の習得	①福祉に関する知識を具体的事例と関連付けて分析し、考察する学習活動を行う。	A	B	資格取得を意識し、将来的に役立つよう、教科書で学ぶ内容について、保育士や介護福祉士養成校で学ぶ内容を重点的に、知識や技術を習得、定着させること。また、グループワーク等、話し合い活動を取り入れ、多職種連携を行う際に活かせるようにする
	福祉に関する課題の発見と、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力の養成	①福祉に関する具体的な事例を取り上げ、多面的・多角的に分析し、考察や討論を行い、実践に結びつく課題解決のための学習活動を行う。	B		
	主体的かつ協働的に取り組む態度の育成	①地域を学びのフィールドとして、地域と繋がりをもちながら信頼関係を構築し、協働して課題の解決に取り組む学習活動を行う。	A		
		②介護職員初任者研修修了を目指し自ら学ぶ意欲を高める学習活動を行う。	B		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教務部	教育計画の立案と円滑な運営	①新教育課程の円滑な移行を図る。	B	A	タブレットPCを含むICTの積極的活用 定期考査における欠席者等の把握方法
		②授業と学校行事の効果的な実施を目指す。	B		
	学習活動等の充実	①公開授業、授業相互参観等による授業の改善を図る。	A		
		②ICT教育に関する情報の提供と、各教科と連携してICT機器の効果的な活用や自主学習の向上に取り組む。	A		
	効果的な広報活動	①ホームページの充実・更新に努め、最新の情報を発信する。	A		
		②中学校訪問等の広報活動や学校説明会の充実をはかる。	A		
	読書活動の推進	①「朝の10分間読書」を効果的に実施する。	A		
生徒指導部	図書館の充実	①読書意欲を高め、自主的学習を支援する環境整備に努める。	B	B	服装等についての規則の見直しを行い、それを生徒に順守させる指導の徹底を図る 交通安全にかかわる指導の徹底を図る（自転車の任意保険の加入の促進など） SNS上ルールやマナーを守って、正しい利用法の指導の徹底を図る
	基本的生活習慣の確立	①定期的に身だしなみ指導を実施し、全職員の共通理解のもとに高校生として好ましい頭髪や制服の身だしなみを確認・指導する。家庭とも連携や協力しながら改善を図る。	A		
		②計画的に登校指導を実施し、挨拶の励行や身だしなみ指導の徹底を図る。	B		
	問題行動の未然防止・早期発見・早期解消	①生徒指導部等で生徒情報を共有し、問題行動を未然に防止する。	B		
		②スクールカウンセラーの積極的な活用を図り、さらに外部の機関とも連携しながら組織的に問題解決に取り組む。	A		
		③いじめ防止対策基本方針に基づいて、いじめの未然防止・早期発見・早期解消を図る。	B		
	規範意識の育成	①全校または学年集会・講話・HR等で指導し、個々の生徒に対しては日々の生活の中で面談等を通じて指導し、意識啓発を図る。自転車・バイクの運転における安全意識を高める。	B		
進		②スマホ安全講習やスマホルール作りを通して、正しいマナーについて生徒に考えさせる機会を与える。スマートフォンやSNS等の正しい利用法を指導する。	B		
	職業観・勤労観の育成	①進路ガイダンスや進路講話等を通して生徒の進路や職業意識の向上を図る。	A		手帳やキャリアパスポートの有効活用
		②手帳やキャリアパスポートの活用を通して、生徒自身が自らの生き方や適性を捉える機会と	B		

路 指 導 部		する。			資格取得の奨励
		③各種資格取得やオープンキャンパスや一日看護体験等の参加を推奨する。	A		入学から卒業、卒業後と連続性のあるキャリア教育の視点に
	一人一人の進路希望先に 応じた支援	①進路希望調査の実施(年2回)に加え、個別面談等を通して生徒の進路目標の把握に努める。	A	A	立った進路指導の実施 進学課外の充実および進学希望者向けの情報発信 進路室、進路資料室、スタディールームの活用
		②各学校および企業、ハローワーク等と連携を図り、生徒個々の希望に応じた情報を入手する。	A		
		③大学入学共通テスト対策に加え、多様な入試制度に対応できるように情報収集する。	B		
		④各学年、教科と連携し進学課外等を企画し、基礎学力の向上を図り、入学・入社試験に対応できる力を育成する。	B		
⑤各種資格取得を奨励したり、オープンキャンパスや一日看護体験等の参加を推奨する。	B				
広報及び情報提供の充実	①「進路のてびき」や「進路だより」等を通じて、面接週間や保護や面談等を利用して、適宜進路情報を提供する。	A			
	②進路資料室や進路掲示コーナーの充実に努め、的確な進路情報を生徒に提供する。	A			
特 別 活 動 部	HR活動、学校行事、生徒会活動の活性化	①生徒と協力した学校行事及び生徒会活動を実施する。	B	B	今年度もコロナの影響で学校行事や部活動の中止・制限があり体制を固めるのが非常に難しかった。次年度の課題は、生徒会活動の活性化と部活動の加入率をあげていくことである
		②キャリアパスポートの有効活用により、生徒が主体的・意欲的に取り組める体験的活動を充実させ、企画・立案する。	C		
		③学校行事及び生徒会活動の新校としての体制づくりに努める。	B		
	部活動の定着率の向上と支援の継続	①太田西山高の部活動及び地域と連携した活力ある部活動を展開する。	B		
②部活動の様子や活躍をホームページに掲載し、生徒たちの自己有用感を向上させる。		B			
保 健 厚 生 部	学習環境の美化・整備	①日常の声かけや広報などを通して、整理整頓・清潔・清掃などへの啓発活動を行い、環境美化に対する意識向上および組織文化(風土)の醸成を目指す。	B	A	整理整頓や清掃に対する生徒の主体性の育成 新型コロナウイルス感染症対策の徹底 防災意識の育成と緊急時をふまえた避難訓練の実施 教育相談の充実と他職種連携 広報誌、HPなどを用いた情報発信
		②清掃用具を更新し、清掃指導を重点化することで、快適な学習環境作りを目指す。また、不用品ものの処分をすすめ、「余白」のある環境作りを推進する。	A		
		③学校環境の安全点検を年3回行い、修理が必要な場所は修繕を行う。	A		
	生徒の心身の健康保持の増進	①各種健診を実施し、必要に応じて学校医の指導を受け、保護者との連携を図る。また、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、健康・安全な学校生活を送ることができるようにする。	A		
		②性教育講話を実施し、心身の健全育成を図る。	A		
	防災意識の高揚	①避難訓練および救助袋訓練を実施し、具体的な行動を通して緊急時の対応に備える体制を作る。	B		
		②防災に関する講話や広報などを通して防災の意識を高め、「正常化バイアス」をなくし防災に対して当事者意識を持つよう啓蒙する。	A		
	教育相談の充実	①教育相談の体制を充実させるとともに、学校カウンセラーや外部機関との連携を図ることで、多様な生徒の諸問題に適切に対処し、メンタルヘルス不調の未然防止に努める。	A		
	情報発信	①広報紙を定期的に発行し、保健厚生に関する情報の提供・共有を行う。	B		
渉 外 部	PTA活動の円滑な実施	①関係する分掌や学年と緊密に連携、協力を推進する。	A	A	県北地区指導者研修会・生徒指導中央大会での活動報告に向けて早めに準備に取り掛かる。コロナ禍においての活動をどのように充実させるか
		②各種会議や打合せ会等の機会を通して、早めの情報伝達・共有を図る。	B		
	本校教育への保護者の理解と協力の促進	①学校行事の記録に努め、広報活動の資料として活用する。	A		
		②PTAの諸活動の記録を蓄積し、今後の活動に反映させる。	A		
第	高校生としての生活習慣の確立	①身だしなみ指導や登校指導を実施し、規範意識やマナーを向上させる。	A		生徒情報を学年全体で共有することで、生徒理解に努め、生活習慣の確立をめざす 個別面談等とおした主体的な学習習慣の確立と進路ガイド
		②普段の生活の中で、時間の遵守や挨拶の励行に努める。	A		
		③起床・就寝時間など家庭での生活状況を把握し、規則正しい生活を確立させる。	B		
		④個別面談や生徒観察をとおり生徒理解に努め、生徒情報を学年全体で共有し、保護者との連携を強化する。	A		

一 学 年	主体的な学習習慣の確立と 進路意識の涵養	①授業の予習復習を中心とした家庭学習時間を把握し、個別面談等をととして家庭学習を習慣化させる。	B	A	ンス等をととした進路意識の涵養をめざす
		②英語検定や漢字検定等の資格取得や課外の受講、模擬試験の受験を積極的に勧める。また、進学情報を多く提供し、小論文課外等の指導等の充実を図る。	B		
		③進路に関する適切な情報を提供し、ライフスキルⅠや総合的な探究の時間、進路ガイダンス等をととして、自己を知り進路や職業について考えさせる。	A		
	特別活動への積極的参加と 地域との協働の推進	①学校行事や部活動に積極的に参加させ、集団への寄与や他者と共感する態度を養う。	A		
		②地域学習やボランティア活動をととして地域との協働を推進する。	B		
第 二 学 年	組織的な学年経営を行う。	①学年全体で課題を共有し、職員間の協力体制を築く。	B	B	基本的生活習慣の確立する 面談やガイダンスで、生徒が 自分の将来を主体的に考えて決 められるような進路指導を展開 する 教員間の情報共有を密にする
	基礎学力の定着と応用的な 学力の育成	①日々の授業を大切する姿勢を身につけさせる。	B		
		②学習意欲の向上を図り、基礎学力の定着に加え応用力を身に付けさせる。	B		
		③自己管理能力の育成を通じて、ICTを活用して自宅学習の習慣化を図る。	B		
	きめ細やかな生徒指導及び 基本的な生活習慣の確立	①日々の授業や身だしなみ指導等を通じ、基本的な生活習慣及び挨拶や言葉遣いなどの礼儀作法を身に付けさせる。	B		
		②整理・整頓、清掃を徹底させ、身のまわりの環境整備に努め、公共心の育成を図る。	B		
	生徒一人一人を大切に した進路指導を行い、進路実現 のための意識高揚	①生徒一人一人の個性や能力を理解した上で、キャリア教育の拡充を図る。	B		
		②進路ガイダンス・インターンシップや進学課外の実施・生徒との面接を積極的に行い、進路実現に向けての意識を強化させる。	A		
		③英語検定、漢字検定、数学検定の資格取得の推奨をする。	A		
	学校生活・集団生活に対す る、生徒の意識付けの実施	①生徒及び家庭との情報交換を綿密に行い、学校生活を更に充実させる。	A		
		②積極的に学校行事に参加させることにより、集団の中の個人の役割をしっかりと認識し、学校生活の更なる充実、及び社会性を身に付けさせる。	B		
第 三 学 年	組織的で効果的な学級運営 及び学年運営を行う。	①学年全体で必要業務の内容や課題及び諸情報を共有し、協力と分業を推進する。	B	A	授業を基本とした基礎学力の 向上 進路実現へ向けての生徒の意 識の高揚 共通理解と分業推進
		②常に教員と生徒と保護者間の協力体制づくりを意識し、最大限それに努める。	A		
		③ホームルーム活動の活性化を図り、学習及び学年行事への主体的な取り組みにつなげる。			
	学習に積極的に取り組む態 度を養い、基礎学力の定着と 学力の向上を図る。	①授業に積極的に取り組む姿勢を形成する指導に努める。	A		
		②一般常識問題集等を計画的に活用し、基礎学力の定着と向上を図る。	B		
		③受験に対応できる学力の定着を目指し、課外学習や家庭学習の確保に努める。	B		
	生徒との意思疎通を十分に 図り、各生徒に応じた生徒指 導に努める。	①客観的で常識的な価値判断ができるよう支援と、社会に適應できる素養や教養を身に付けさせるように指導する。	A		
		②生徒との面談や教育相談をととして、心の教育の充実に努める。	A		
		③整理・整頓を行い、身のまわりの環境整備及び清掃美化に努める。	A		
	各生徒に応じた進路指導に 努め、生徒の主体的な進路 実現を図る。	①キャリア教育の視点から、各生徒の能力と適性の理解に努める。	B		
		②各種ガイダンスの企画立案、LHR等を利用した体系的な進路研修会の実施に努める。	A		
		③コース別クラス編成を活かした進路指導の効率化と専門化を図る。	A		
	学校生活・集団生活に対す る、生徒の意識付けを行う。	①HR活動、学校行事、ボランティア活動などへの積極的な参加を促し、最高学年としての役割を自覚させる。また、集団の一員として活動する意識を持たせ学校生活の更なる充実を図る。	A		
		②保護者との連携を密にして情報の共有化を図り、学校生活への意識の高揚を図る。	A		